



東京2020大会の「多様性と調和」における ジェンダー平等報告書【概要】

2021年12月22日

本報告書のポイント

○本報告書では、組織委員会が当初より進めてきた「多様性と調和」の取組にも言及しながら、ジェンダー平等の取組を中心に振り返り、その成果や残された課題について記載

○最大の特徴は、2018年にIOCが公表した「ジェンダー平等再検討プロジェクト報告書」に示された25の提言という**明確な枠組みに沿って、大会の取組の進捗を整理したこと**（上記提言に基づく整理は東京大会が初）

※來田享子理事と井本直歩子ジェンダー平等推進チームアドバイザーの協力を得て作成

【提言に基づいた進捗確認（抜粋）】

提言1：オリンピック大会への参加

→女子選手参加割合**オリ約48%、パラ約42%**（大会史上最高）

提言2：競技形式及び技術的ルール

→男女混合種目が、前回大会に比べて**オリ9種目から18種目に、パラ38種目から40種目に増加**

提言3：ユニフォーム

→大会スタッフや技術役員のユニフォームに、**性別・国籍・年齢を問わず着用できるデザインを採用**

提言8：競技スケジュール

→**男女の決勝を種目別に交互に設定したり、5つの競技で女子の決勝を最終に実施**

提言9：医療

→大会史上初めて、選手村の**総合診療所内に女性アスリート科を設置**

提言10：スポーツにおけるハラスメント・虐待から選手を守る

→会場入場者の禁止行為に**アスリート等への性的ハラスメント目的の撮影の禁止を明記**

本報告書のポイント

【提言に基づいた進捗確認（抜粋） 続き】

提言12：両性のバランスの取れたメディア表象

- 開会式で男女1名ずつのアスリートが旗手を務めるよう奨励され、多くの国が遂行
- IOCの「ジェンダー平等のための表象ガイドライン」を和訳し、メディアブリーフィング実施

提言18：ガバナンスにおける女性リーダーシップ育成

- 女性の橋本聖子氏が会長に就任。理事における女性の割合を42%に引き上げ

提言22：排除のない組織文化と多様性に関するリーダーシップ

- 「多様性と調和」の大会を担う「組織づくり」「人づくり」を一貫して実施
(アクションワード「Know Differences, Show Differences ～ちがいを知り、ちがいを示す」、
D&I宣言、LGBTQ当事者との交流会、「PRIDE指標」のゴールド受賞、東京2020D&Iアクション等)

提言25：広報計画

- ウェブサイトでジェンダー平等などの専用ページを開設し、情報発信
- 「多様性と調和」の取組を競技会場のパネル展示やメインプレスセンター持続可能性ブースで発信

**○大会の開催を契機に、計画段階からジェンダー平等の課題を体系的に整理し
明確な枠組みを提示のうえ、戦略的に取り組むことができているれば、より多くの
インパクトを社会に残せた可能性**

**○本報告書に記した具体的な進捗とその過程で浮き彫りになった課題が、国内
外のジェンダー平等の達成に向けた国、開催都市、スポーツ関係団体による今
後の体系的・戦略的取組やモニタリングの促進に活用されることを期待**

その他の主な論点

○ジェンダー平等リーダーシップ

- ・ 普段から多様な分野で活躍する男性と女性の理事が、各自の立場からの視点や経験を踏まえた意見を提示することにより理事会が活発化
- ・ 「東京2020D&Iアクション」実施に際して、新任理事、アスリート出身理事、アドバイザー等の自主的グループによる活発な意見交換

⇒多様な意見を尊重し、理解し合うことからより良い取組や変化が生まれるという考え方が当たり前となり、より女性の登用、人材育成が推進されることに期待

○性の多様性が表現された東京2020大会

- ・ LGBTQアスリートであることを公表したオリンピックが186名、パラリンピアンが36名
 - * 【いずれも大会史上最多】 (*LGBTQアスリートのWeb専門誌アウトスポーツ (Outsports)より)
- ・ オリンピック史上初めて、男性から女性に性別を変更したウェイトリフティングのニュージーランド代表選手の出場にも注目

⇒身体の性別と性自認をめぐる、スポーツにおける公平と平等とは何かを考える場に

○選手のメディア表象をめぐる課題

- ・ 「スポーツにおけるジェンダー平等、公平でインクルーシブな描写のための表象ガイドライン」の和訳を国内外メディアに配布し、ネットメディアを中心にその存在が報じられ、スポーツだけでなく、社会一般、教育の分野でも参考になると評価
- ・ 選手の描写を性的視点で捉える問題に対し、JOC等7団体は声明を出し、組織委員会では性的ハラスメント撮影を大会における禁止行為に。ドイツ女子体操チームは足首まで覆う「ユニタード」を着用し、誰の目にもつく形でこの問題への発信の場に